

日置南洲窯

シラスバルーンを用いて製造する オリジナル楽焼「薩摩黒楽」の試作開発

火山灰シラスから作られる「シラスバルーン」を原材料として、現在、薩摩焼では製造されていない楽焼のオリジナル陶芸品「薩摩黒楽」を製造するための装置を導入し、試作品の開発および製品化を目指す。



薩摩黒楽

事業のきっかけや目的

シラスバルーンは白色微粒で、断熱、遮音、軽量、かつ安全・安心の天然素材という特長から、現在は石鹼、洗剤や洗剤、研磨剤、建材、断熱塗料や遮熱塗料などに利用されている。伝統の技と南九州において膨大な天然資源の一つであり、地域性が強く感じられる「シラス」という新しい原材料を融合させた新商品の試作開発・商品化を目指すことで当事業オリジナル「薩摩黒楽」を提唱したいと考えている。

事業の取り組み内容と成果

シラスバルーンを生かした断熱・保温性の高いオリジナルの楽焼を製品化し、薩摩の地から茶の湯への参入を目指す。シラスバルーンは、1000℃程度の低火度でも軽量性や、断熱・保温性の要因となる高気孔率を維持できるため、薩摩焼の特徴と楽焼の長所を併せ持つ。新素材で「楽焼」手法を用いることで新しい薩摩焼のジャンルを確立できる。

事業化に向けての今後の取り組み

薩摩焼の特長と楽焼の長所を併せ持ち、かつシラスバルーンの利点を活かした新たな焼物としての差別化ができると考えています。今後は蒔絵師より絵づけの技術を習得して「薩摩黒楽」独特の世界を広くアピールし、ワンランク上の茶道具として海外に向けて展開していきたいと考えています。



土練機



黒楽焼成窯



日置南洲窯

S・U・Z・U・I・S・H・I・N

他人と同じものは作らない

昭和 53 年開窯。日置島津家の菩提寺である吉富山大乗寺跡に築窯し、作陶を行っています。作品をろくろで回しながら板で叩いて仕上げる「叩きの技法」による作品が特徴。また、粘土と漆のコラボレーションによる作品「薩摩陶胎水指」など、新しい要素を薩摩焼に取り入れる試みも行っています。「流行は追わない。他人と同じものは作らない」をポリシーにこれからも挑戦を続けてまいります。

企業 DATA

西郷どんで知られる「西郷隆盛」の曾孫にあたる。NPO法人「西郷隆盛公奉賛会」の理事長を務め、鹿児島県薩摩焼協同組合の理事長でもある。伝統的な「黒薩摩」作品を制作する一方で、常に新しいものに挑戦し、今後も様々な活動を通じて世界に通用する「JAPANブランドSATSUMA」に育てていく。



代表 西郷 隆文

事業者	日置南洲窯
代表者	西郷 隆文
所在地等	〒899-3101 日置市日吉町日置5679 TEL 099-292-3477 FAX 099-292-3477 <鹿児島県薩摩焼協同組合> E-mail satsumayaki@po5.synapse.ne.jp URL http://www5.synapse.ne.jp/satsumayaki/
従業員	3名
業種	窯業・土石製品製造業